



大阪から奈良をむすぶ最速の古道（酷道 308 号線）歩きの案内

古代より奈良と大阪を結ぶ道（官道）は沢山ありましたが、奈良と大阪の間に南北 35 km、東西 5 km の生駒山地が連なりこの生駒山を越えなければなりません。この生駒山地の成因は従来、地塁山地とされてきたが近年の研究で褶曲山地説が有力となっています。大阪平野の望む西斜面は急傾斜の断崖で樹木や藪で覆われている。東斜面は緩斜面で谷に沿って耕地が広がり住宅地の造成が進んでいる。また、生駒山地の最南端に大和川の溪谷に沿って古代からの官道が竜田古道や竹ノ内街道があります。

今回は奈良と大阪を結ぶ最短距離の古道暗越奈良街道（暗峠古道）を歩きました。この街道は現在は国道 308 号となっています。律令時代には国の重要な官道です。また、生駒山を越える道には暗峠越の他に十三峠（じゅうさんとうげ）がありさらに南には大和川沿いの竜田古道もあります。

古代律令体制当時にはすでに五畿七道があったと言われています。これらの官道は大化の改新時代に形成されていたが、天智・天武天皇時代に本格的に整備がおこなわれたそうです。

国道 308 号は暗越奈良街道と呼ばれますが、別名**酷道 308 号**と言われるように急な坂道です。車道としては狭くしかも曲がりうねっており、標高差 405m、最高斜度は 31 度もあり、そのため車で登るのは慣れていないと危険です。また下りではスリップしてしまいます。道はコンクリートで地面には○印のような滑り止めがあります。下見に行った時、車が滑ったのか谷に落ちていました。

＊ 雨天状況による判断について 前日 18 時の京都府北部の降水確率 40% 以上の場合は中止いたします。また、メールでも連絡いたします

記

日 時：2022 年 12 月 22 日（木） 枚岡神社鳥居前 10 時 30 分集合

持 ち 物：飲み物・弁当・マスク・雨具・双眼鏡・ストック（あるとよいです）

活動日程：枚岡駅・・・国道 308 号線・・・棕ヶ根橋・・・**勸成院（芭蕉の句）**・・・豊浦橋・・・ふれあい広場・・・枚岡展望台・・・神津嶽ふれあい広場（トイレ）・・・なるかわ園地管理事務所（昼食・トイレ）・・・国道 308 号出合・・・出迎え地藏・・・暗峠（休憩）・・・万葉歌碑・・・摩崖仏・・・近鉄南生駒駅（解散）

行程距離：歩行距離 7.2 km 歩行数 16012 歩 歩行時間 5 時間（昼食等含めて）

行程地図（別紙参照）



枚岡駅の前には神社の参道がある

俳諧の松尾芭蕉はこの道を奈良から大坂に向かい歩いたそうです。元禄 7 年（1694 年）10 月 12 日に芭蕉は訪

集合場所の枚岡駅には森海で何回来たことでしょうか。出前授業の本番や準備で訪れたのは 5 年前でしたかね。

枚岡神社を抜けて棕ヶ根橋を渡ると急登の山に登るように細いコンクリートで舗装された道が国道とは思えません。しかし、国道 308 号線です。別名酷道 308 号線といいます。

棕ヶ根橋近くの標識→



れた大坂御堂筋の花屋仁左衛門の屋敷で亡くなりましたが、そのほぼ一か月前の 9 月 9 日にここを下って大坂に向かったことが分かる句碑があります。



松尾芭蕉の句碑

豊浦橋から国道を離れてなるかわ園地事務所に向かいます。途中枚岡展望台、神津嶽休憩所を通過していきますが、神津嶽休憩所からなるかわ園地事務所までの山道が急登となっていますので、のんびり上って行きたいと思います。到着したなるかわ園地事務所で昼食にします。



なるかわ園地事務所



暗峠から南生駒駅に向う道からの展望

南生駒駅までの道は最初はきつい下りですが、しばらく進むと緩やかになります。ストックを使って歩くとよいでしょう。

担当 (C グループ 川里シリーズです)

菊の香に くらがり登る 節句かな 芭蕉

この句の節句とは重陽の節句のことで 9 月 9 日に、芭蕉はこの道を歩いたということが分かります。

下見に行った時、車が谷に落ちていました。暗峠街道は狭く、きつい下り道のため車がスリップして落ちたようです。危ないですね。



豊浦橋の横で谷に落ちた車

昼食後、園地内の道を歩いていくと国道 308 号と合流ししばらく進むと暗峠に着きます。ここから南生駒駅までは下り道ですが、ひざを痛めやすいのでご注意ください！



暗峠（奈良と大坂の県境）

河内名所図会に暗峠には沢山茶店があった様子が描かれています。棕領峠（くらがりとうげ）と書いています。

